

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400097		
法人名	社会福祉法人 宏友会		
事業所名	グループホーム風車の家(ユニットB)		
所在地	札幌市西区宮の沢490番地87		
自己評価作成日	平成27年5月25日～7月31日	評価結果市町村受理日	平成27年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani%2Fue&JigvosyoCd=0170400097-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年9月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	24年度に職員全員で意見を出し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念の項目を追加すると共に、文言をシンプルにした為職員が理解しやすいものとなっている。特に“環境づくり”“地域づくり”は意識しているが、更に常々理念を意識した支援が行って行ける様に努めたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が入居以前から利用していた美容室へ出かけたり、近隣の喫茶店やスーパーへの出入り、町内会の催しへの参加、更に施設での避難訓練や行事に地域住民の参加など少しずつ地域とのつながりは増え、職員も地域との関わりを以前より強く意識していると感じる。今年度、法人で立ち上げたカフェには入居者様が掃除に出掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症をテーマとした話し合いの場を設けたり、法人で立ち上げたカフェに入居者様が掃除に出掛けたりする事で少しずつ発信する機会を増やしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では行事報告とテーマを決めた話し合いをしていると共に、施設行事への参加や入居者様の写真上映会も年度末に行なっている。構成員からの意見や会議の内容は職員会議において情報共有するとともに、必要であればその後の運営に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護や市のオムツ配達サービス事業を利用している入居者様が在る為、それぞれの担当者にアドバイスを頂く機会がある他、包括支援センター職員は、運営推進会議に毎回参加して下さる。市や区の会議には管理者が中心に積極的に参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間のみ防犯上行なっているが日中は自由に入出入りできる。職員が欠員している現状において出来る範囲で入居者様の外出を妨げないよう工夫を重ねて支援しているが、職員間の力量のバラつきがあり課題と感じている。その他の身体拘束も一切行っていないが、身体拘束における弊害について学ぶ機会を持ち、更に理解を深めたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、施設外の研修において学ぶ機会はある。言葉がけについては、相手に与える印象が大きいため、常々職員同士注意し合いながら気をつけている。職員が欠員している現状においては、入居者様が孤立してしまわないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他ユニットで実際に成年後見人制度を活用している入居者様がいる、必然的に制度を学ぶ機会も増えているが、その対応は管理者が中心となって行っている為、職員一人一人が制度の理解を深める為の勉強会の開催や自己啓発の機会を増やし、入居者様一人一人に必要な制度を提案できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族には、出来る限り事前に施設を見学して施設の雰囲気を見てもらってから契約してもらうようにしているとともに、契約締結時・解約時には十分に話し合いの場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは、日々の会話、運営推進会議、ケアプラン作成時、行事後のアンケート等において積極的に要望を知る機会を設けていることで、ご家族とは以前よりコミュニケーションが取れていると感じる。入居者様の要望に関しては、自らの想いを表現する事が困難な方も多くなっている為、思いをくみ取る事が出来るように工夫を重ねたい。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の会話、定期面談から職員と管理者の意見交換の機会が持てるように努めている。職員面談については、“働きやすい職場づくり”の為、特に新人への面談の機会を増やすなどの工夫を行なっていきたい。法人では職員満足度調査(ES)を実施した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、定期的な昇給、勤務年数に応じた表彰など職場環境の整備に努めている。また、職員満足度調査(ES)の実施を年1回行なっているとともに、現在職員の意見を吸い上げながら人事評価システム作りを開始している。実際にESの結果を受けて、今年度は夜勤手当の改善があった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では勤務年数にあったキャリア別研修が実施されている。事業所内においては職員の自主的な発表の機会を設け、各自で参加した研修の発表や自主的な勉強の成果を発表し合い職員が互いに知識や意識を高め合う事が出来ている。施設外の研修においても、研修情報を常に開示しており、希望があれば参加できるように勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議参加や実習生受け入れ等にて同業者と話す機会はあるが、それらの対応は管理者が中心である。外部研修において職員が同業者と接する機会はあるが、研修後も交流が続くようなことは少なく、サービスの質の向上にまでは至らない。今年度、道GH協が行なう相互評価システムを積極的に受け入れている事もあり、今後その幅を少しずつ広げていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは新規入居者様に安心・信頼してもらえるよう、コミュニケーションを工夫し関係の構築を図っている。その他、入居前はセンター方式の活用と事前訪問時にも時間をかけて情報収集をしっかりと行うよう努めている。それらで得た本人情報には、職員は必ず事前に目を通すとともに、必要に応じてケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	親などの入居や認知症と言うものが前提にあるご家族には、様々な不安や葛藤があることをまずは念頭に置き、それらに配慮しながらご家族が施設に安心・信頼できるように、言動に工夫を重ねている。入居前や事前訪問時に得た情報には、職員は必ず事前に目を通すとともに、必要に応じてケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前相談の時点では十分に家族や本人と話し合い、施設でできる事とできない事を予め伝えながら、その時点の本人にとって何が最善かという事について考えている。時には施設入所以外のサービス利用の提案や、他施設の紹介も行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は共に生活をするものと意識し、入居者様が出来る事は自分で行ない、更に得意分野を活かしながら生活できるような支援には力を入れている。職員間の力量や考え方の差により課題は多いが、今後も常に意識をしていきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告や相談をこまめに行なったり、毎月送付するご家族宛の手紙を工夫したり、受診の付添いや行事の参加をご家族に促したりすることでご家族との関係作りは大切にしている。実際にご家族も職員に気軽に相談に訪れたりする場面が以前より増えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会や外泊は自由で、実際に入居前に通っていた美容室を利用する入居者様もいる。勤務の都合上ご本人の希望通りのタイミングで出掛ける事ができない事も多く、更に入居者様の外出を増やせるよう工夫を重ねたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の認知症状の重度化や感情の変化が大きい方への対応に苦慮しているが、今の現状において出来る範囲で、その様な方達も他入居者様達と一緒に生活を共にしながら、共に笑ったり、共に話したりできるような工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族には契約終了後であっても、いつでも相談に応じることができる事や気軽に来園して頂けるような声掛けをしている。入居者様の退去後も移動先に面会に行ったり、ご家族から手紙を頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の普段の言動や表情などから、入居者様の思いをくみ取る事が出来る様に、職員は常にアンテナを張りながら根気強く思いの引き引き出しに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時や関係者からの情報収集、センター方式の一部分をご家族に記入してもらうことにより情報の収集に努めている。情報には、職員は必ず事前に目を通すとともに、必要に応じてケアプランに反映させている。入居後も、ご家族来園時に相談・報告を積極的に行なう事でご家族の目線でのご意見を募り、更に理解を深めるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングには時間をかけ、入居者様の変化を職員間で細やかに共有できるよう工夫している。月1回開催している職員会議でも入居者様一人一人の状況について話合っている。入居者様のできる事・できない事の把握は常に意識し自立支援にも特に力を入れているが課題も多く、日常的な実践にまで至っていないのが現状である。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにはご家族に来園してもらい、ご家族や他職員の希望や要請、不足分を加味してプランとしている。ご家族にも常々ケアプランを意識できるよう、毎月送付する家族宛の手紙の中に、ケアプランとプランの進捗状況、サービス内容に沿った写真を添付している。今後は、カンファレンスに入居者様本人が積極的に加われるよう工夫したい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者様一人ひとりの様子を記録に残し、受診等の重要事項は赤字で記入する等して情報共有し易い様に工夫をしている。毎日のミーティングでも入居者様の状況について話合う時間を設け、更にセンター方式を使用したアセスメントにおいて入居者様の情報を可視化し情報共有をやすくし、支援やプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	公共交通機関を使った外出、地域美容室の利用、様々なボランティアや出張リハビリの活用などなど、入居者様のニーズに対応できるよう工夫を凝らしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共交通機関を使った外出、地域美容室の利用、様々なボランティアや出張リハビリの活用、町内の催しへの参加や近隣のスーパーや喫茶店へ出掛けたりすることで地域の力を借りる機会が多い。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療を確認し、主治医や救急搬送時等の希望に沿いながら、その関係を継続できるようにしている。施設には内科医が週2回、歯科医は必要に応じての往診がある他、外科などの協力病院が幾つかあるので必要に応じてご紹介している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師はいないが、協力医とは長期にわたり関係がある為十分に連携がとれていると感じる。家族とも常々連絡を取りながら入居者様が適切な医療を受けられるようにしている。また、施設内外の研修を活用し、職員自らが医療知識を身につける努力をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の症状により、入院生活や治療の弊害になる事が多いという事を理解し、入居者様が入院した際には、病院への情報提供やご家族との連絡をこまめに行ない、早期退院に向けての話し合いを行なう。往診に来て頂いている医師とは関係づくりができていて、入院先の紹介はスムーズであるが、入居者様が安心して入院できる病院は少ないと感じる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に看取り介護はしていない旨、重度化した際に事業所で出来る範囲については見学时や契約時に説明し了承を得ているが、終末期になっても出来ることは最善を尽くして対応している。重度化による住替え時には早い段階から家族との話し合いの場を多く持ち情報の共有をすると共に、本人にとって最善の場所やタイミングについて相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAEDや心肺蘇生法の実践訓練を実施していると同時に、マニュアルも整備・定期的な読み合わせをしている。ただ全ての職員が実際の時に的確な判断・対応が出来るか不安は残る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時のマニュアルは整備している。火災時の避難訓練は年4回行っており、そのうち2回は実際に入居者様と地域住民の参加がある。備蓄品も隣接する母体施設に確保されている。ただ、火災時以外の災害時の訓練ができていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳が遠い入居者様や男性入居者様にはそれぞれの障害やプライドに考慮したりと入居者様個々の状況に合わせての声掛けを工夫している。また、入居者様を尊重した言動を職員は常に意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での会話以外にも、センター方式を活用しながら、積極的に本人の想いの把握に努めている。“何を飲みたいか？”“どれを食べたいか？”“どれを着るか？”など、現状の中においてできる範囲で、小さい事でも入居者様の自己決定の場を増やしている。まだまだ職員のペースになる事も有る為、一つずつその機会を増やしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状の中においてできる範囲で、ケアプランを中心に入居者様一人一人がご自分のペースで過ごす事が出来るよう支援している。今後もプランのみに囚われず、様々な視点から入居者様の生活を支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性職員であっても、女性が化粧をすることへの重要性を理解し、入居者様が普段より化粧できるようプランにも挙げて取り組んでいる。その他季節と希望に合った衣類を着る事ができるよう支援している。衛生面においても配慮し、いつも快適に過ごして頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けも入居者様と一緒にやっているが、職員の力量や意識の差により触発の仕方や機会に差があるのが現状である。入居者様の持っている力の活用について職員のスキルを高めていきたい。また、ボランティアの受け入れなどにより、入居者様の食事作りの機会が以前に比べかなり減っている事も課題である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業者に依頼し必要なカロリーを摂取出来る様にしているとともに、必要に応じて水分摂取チェックも行っているが、実際に作ったもの、食べた量と照らし合わせて、それが適正なのかのチェックをしていない為、今後その確認を地域のカも借りながらしていきたい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、起床時と就寝前は毎回、その他は必要に応じその都度行っている。義歯の出し入れが困難である入居者様に関しての口腔ケアが課題である。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ類の使用時は、入居者様の能力の妨げにならない様に過度に使用しないという事を一番に考え、職員間で十分に検討を重ねたうえで使用を開始する。トイレ誘導は、入居者様の仕草から排泄のサインを感じ取り入居者様にとって最善のタイミングを図っている。認知症状や身体能力の低下によりトイレでの排泄が困難になってきている入居者様が増えてきたことで、リスク管理とのバランスを考えながら更なる工夫が必要と感じている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医と連携を図りながら食材や運動など様々な視点からアプローチをし、なるべく薬に頼らないで自然排便ができるよう支援している。実際に、以前ひどい便秘であったが現在では自力でスムーズな自然排便ができるようになった入居者様もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせてお湯の温度調整や同性介助時間の配慮などの支援を行なっている。入浴の曜日は決めておらず、お一人週に2回以上を目安として入浴に取り組んでいる。入居者様から希望があった場合は、回数に囚われず出来るだけ添うようにしている。入浴したくない入居者様に関しては無理強いせず、タイミングや声掛けの工夫を重ね、ご本人が入浴を楽しめるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、入居者様個々の状態に合わせて、その方に合った休息が出来るよう支援を行なっている。夜間就寝前は、下肢のマッサージやトイレの誘導、飲み物の提供などの工夫をし、気持ちよく入眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬によるものと思われる入居者様の変化があった場合には、医師と協力しながら無駄な服薬を減らす等個々にあった服薬状況になるように支援している。職員は一人一人の薬の状況について把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランを中心として、入居者様が楽しく過ごす事が出来るよう工夫をしているが、重度化してきた入居者様にとっての生活支援には課題が残る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員だけの力に依らず、家族や同法人の職員の手も活用しながら遠くへの行事を実施したり、競馬場や行きつけの美容室、地域のカフェなど入居者様の希望に合った外出は現在の状況においてできる事は行なっている。今後、もっと日常的に外出できるように工夫を重ねたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は自由であるが、現在所持金がある入居者様はいない。買い物などの外出時には入居者様にお金を支払ってもらうなど、一人一人の能力に合わせてお金を使う機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由である。年賀状の作成や、家族からの電話の返信支援も行っているが、入居者様自らがそれらを希望する事が殆どない為、積極的にそれらを表せる支援や、こちらからの確認も必要であると感じている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は毎日掃除を行なっていると、電話やテレビの音、職員の声などに配慮し、入居者様にとって心地良い空間づくりに努めている。しかし、共有部分や事務所内に不必要な物が置けばなしになっていたり、整理整頓されていない事が多く入居者様の混乱を招く事が考えられる為、気をつけたい。また、季節を感じられるものが少ない為、時季に合った花などを飾りたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂は壁で仕切られている他、狭い空間を幾つも作り、グルーピングに配慮している。廊下の端にも少人数用のソファを設置し、他から少しだけ離れた時に活用できる場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は出来るだけ馴染みの家具を持込んでもらい、配置も工夫してリロケーションダメージが最小限になる様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の家具等は転倒のリスクを考慮したうえで、入居者様が自由にかつ安全に居室内の時間を過ごすことができるように、その配置や家具そのものの工夫をしている。入居者様の重度化に伴って日々の変化を見極め、それに合った環境づくりを続けていきたい。		